



第141号

発行所 上高井教育会
 発行人 上高井教育会長
 山崎 純
 編集人 会報編集委員長
 黒岩 英雄
 印刷所 須坂新聞社

特集

継続実践の発表

第十二回研究発表会
 第十一回女教師研究大会

十二月一日(土)、須坂小学校視聴覚室において、会員百十余名参加のもとに、第十二回研究発表会が開催され、本年度も三名の先生により、発表がなされた。
 十二月六日(木)には、女性会員百五十余名の参加により、同じ須坂小学校視聴覚室を会場に、多くの会員の展示作品のなか、第十一回女教師研究大会が開催された。

本研究発表会は、会員の普段の研究発表をすることを通して、自己錬磨に努め、会員相互の資質の向上に寄与するべく役割を担っている。
 今年度も昨年同様、持ち時間を一人三十分として、三名の先生方に発表していただいた。発表者は「野尻湖発掘に参加して」佐々木早苗先生(栗ガ丘小)、「謡曲の中にみる仏教」越正行先生(豊洲小)、「学級づくりと道徳教育のかかわり」久保田英雄先生(高山中)であった。佐々木先生は、ご自身で体験された野尻湖発掘の様子を、スライドをまじえながら発表された。実感から語られる一言一言は力強く、聴く者を太古のローマにひたらせて下さった。越

先生は、時おりすばらしいお声で謡曲を誦しながら、仏教との深い結びつきについて発表して下さいました。会場に、しばし静かな時が流れた。久保田先生は、豊富な資料をもとに、ご自分の学級のかかえる問題点を真摯に見つめられ、道徳の授業を通して高められていく生徒たちの姿を情熱を込めて語られた。熱心な発表の姿に、聴く者も思わず引き込まれる発表会であった。

一方、女教師研究大会は、書、画、手芸、生け花、焼き物、被服など、会員の作品に囲まれて、「人間性豊かな児童・生徒を育てるために、私たちはどのようなことに立ちかかっているのか、子どもの理解の上に立った指導のあり方を求めて」意義な会であった。

野尻湖発掘に参加して

佐々木早苗

長野県と新潟県の境近くに野尻湖があります。ここでナウマンゾウの発掘が行われていることをご存知の方は多いかと思いますが。

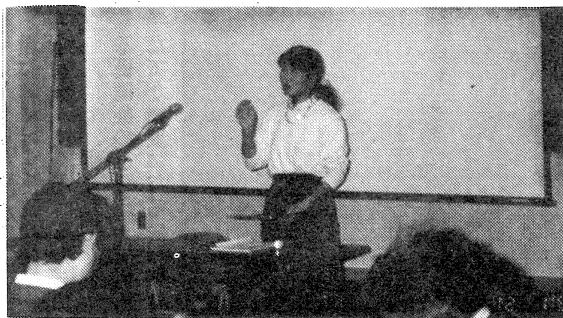
私は、六年ほど前、何かもつと自分を豊かにできることをしたいと思っていた所へ、知り合いから誘われ、この発掘に参加するようになりました。

私は、有名な湖底の発掘ではなく、陸上を掘る発掘から参加しました。一九八五年八月四日から十三日までの十日間行われた、第四回陸上発掘です。

初めてで、何もわからないままでの参加でしたが、専門的な知識を持つ人々を初め、多くの参加した仲間を支えられ、十日間を無事過ごすことができました。土を掘る時の手応えというのが、なんとも言えず感動的で、「ぜひ次も参加したい」と野尻湖発掘にのめり込んでいったのでした。

そして三年後の一九八八年に、第五回陸上発掘に参加し、多くの仲間との再会を果たし、少しは知識もつき、考古学への興味もわいていったのでした。

野尻湖と新潟県の境近くに野尻湖があります。ここでナウマンゾウの発掘が行われていることをご存知の方は多いかと思いますが。



野尻湖発掘には、発掘以外の研究活動があります。十一の専門グループがあり、専門家も素人もみんな発掘の成果を学び合います。私は人類考古グループに所属し、石器や土器を扱いながら、考古学

実際に石器や骨器(骨の道具)を作る活動を通して、発掘の時に出てきた石や骨が、人が作ったものか、そうでないものか見分ける目を養っています。

野尻湖の発掘は一九四八年に、ナウマンゾウの臼歯の化石が拾われたことがきっかけで、始まりました。第一回の発掘が一九六二年に行われ、以来三十年近くにわたり発掘が続いてきています。その間多くの成果が上がり、地層中の火山灰や、花粉の化石の分析、石器や骨器の発掘により約二万年ほど前の野尻湖は、

①今よりもずっと寒い気候で
 ②ナウマンゾウやオオツノシカといった大型の獣がいて、
 ③それらを狩っていた人類(野尻湖人)がいたことが明らかになってきています。

また、この三月に行われた第十一次発掘ではナウマンゾウやオオツノシカの足跡の化石が発掘され、大きな話題となりました。

野尻湖の発掘は、昔の野尻湖周辺の様子を復元することに大きな目標があります。しかし、まだまだ資料が少なくわからないことがたくさんあります。来年の夏には、第六回陸上発掘、三年後の一九九三年には第十二次の発掘が行われる予定です。

私もこれらの発掘に参加して、野尻湖人のいた証拠をこの手で掘り出していきたいと思っています。(栗ガ丘小)

野尻湖の発掘には、発掘以外の研究活動があります。十一の専門グループがあり、専門家も素人もみんな発掘の成果を学び合います。私は人類考古グループに所属し、石器や土器を扱いながら、考古学

謡曲は、室町時代に観阿弥世阿弥父子によって大成され能楽で詠われる節付き歌詞といふことができます。その歌詞の中には、神仏に関連していると思われる表現が、比較的多く、このことは、謡曲の成立当時の社会的背景からして当然のことと思われる。ここでは仏教、特に法華経思想関係のものと浄土願生の信仰に関するものをとり上げてみます。

法華経思想が語られているものは、「草木成仏」(草木国土悉皆成仏)と「女人成仏」の二点です。

『杜若』(かきつばた)の一節に「草木までも露の恵みの。仏果の縁を申うなり。非情の草木に詞をかハす」等にみられるように、草木までも成仏できる有り難い教えとしており、衆生をあまねく救い利益を与える法華経が語られている。

また、女の人には厳しい修業には耐えられないので成仏できないというのが一般的である。しかし、法華経では成仏できることを「胡蝶」の中で女の人が蝶に「姿を変えて御僧に言葉をかかし奉り」として出現している。その後女人は胡蝶の精となって「有り難やこの妙典の功力に引かれ。有

謡曲の中にみる仏教

越 正 行



次に浄土願生の

情非情も隔てなく仏果に至る花の色。深き恨みをはらしつつ梅花(法華経)に戯れ」と語りながら舞うところに女人成仏ができる表現をみることが出来ます。

日蓮上人は、「南無妙法蓮華経」のお題目を唱える者だけが、不安や災難から救われるとして、他の宗派を激しく罵っているが、『鶴飼』では「二つもなく、三つもなく、唯一乗の徳によりて。奈落に沈み果てて浮み難き悪人の仏果を得ん事は、この経の力ならずんや」として、法華経による普く済度の強い表現となっている。

信仰では、人間は、阿弥陀如来の極楽浄土に往生して苦悩の娑婆を離脱したいとするが、そのためには、善行功德がなくてはならない。しかし、それが容易ではないが、阿弥陀如来の本願を頼みとして、弥号念仏することで、全ての人はもろさず極楽浄土へ往生できるとしている。そのことが、善光寺を舞台にしている『柏崎』にもみられる。

「己心の弥陀如来、唯心の浄土なるべくハ。尋ねべからずこの寺の。御池の蓮のえん事をなどか知らざらん。只願ハくは影頼む。声を力の助け舟。黄金の岸に送るべし。」と語り善光寺の池の蓮がそのまま極楽であるとしている。また、内陣に向かっては、もし成仏できて、十万世界を救おうとの如来の誓願が真ならば、「白雲のたなびく山や西の空の彼の国に迎えつつ。一つ浄土の縁となし望みをかなへ給ふべしと。称名も鐘の音も。暁かけて燈の。善き光ぞと仰ぐなりや。南無帰命弥陀尊願いをかなへ給へや。」と願いを夜念仏に込めて唱えている。作者が、このような謡曲を作成したことは、以上に述べた思想の尊さを前提としているからであり、また当時の多くの人が法華経の教えとか極楽浄土に大変な憧れを抱くと同時に仏への信仰がどんなに深いものとなっていたかを伺い知ることが出来ます。

(豊洲小)

とらえを生かした道德教育

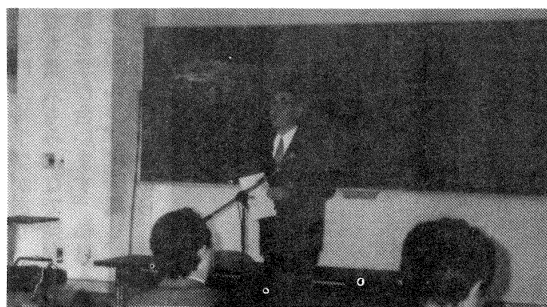
久保田 英雄

人と人との関係の中で、一人一人がよりよく生きようとする生き方そのものが、道德と呼ばれてきた。この生き方を育てていく事が、道德教育において目指している道德性の育成である。従って、道德性の育成を目指す道德教育は、人間をして、人間らしい良さを発揮するための教育であると言える。

最近の生徒たちを取り巻く状況は、大きく変化し、とりわけ価値の多様化、家庭における教育力の低下が著しくなっている。このような状況下で育つ生徒たちには、自らよりよい生き方として価値がみえにくくなっている。

一方、本校の生徒を見ると穏やかで素直な良さを持つ反面、自分の考えがはっきりせず、積極的に自分の考えを押し進めていこうとする生徒は少ない。また、教師もその生徒の表面だけを見て指導しがちで、その生徒の内面をとらえた指導が、軽んじられがちになっている。

そこで、生徒の現象面から生き方を決め出している価値観、そして、一人の人間としての育ちの方向まで深めた。生徒の内面のとらえを確実にし、深い解釈、つまりさきを見極め、手だてを打つことによ



この仮説は、道德学習においてだけのものではない。全ての教科等の指導でも重要になると思われる。

実際に、クラス・対象生のとらえ・解釈をして、昨年度は「表面的な人間関係で、その場その場をとりつくり、安定をはかっている生徒たち(これは誰でも多かれ少なか

れあることではあるが)」がみえてきた。そこで、以下の手だてで授業を試みた。

①生徒の生活経験・行動と類似した由美さんが委員長にむいているか考えさせる。

②由美さんだけでなく、私にもあるごまかしや人によって態度をかえる姿に焦点化し、自分にはそういう事がないか考えさせる。

③どのようにしたら、②のような心を持ち越えられるか考えさせる。

④その場その場で人の悪口を言ってしまった自分に気がついた星野富弘さんの資料を用意し、「こおるような悲しみ」とはどういうことか考えさせる。(謙虚・広い心)

授業記録は昨年度研究委員会のまとめを参照頂きたいが、一年を経て「相田みつをさんの考え方って、すごく憧れてしまう。私にはもてない考え方を持っているんです。私の場合、この頃自分の事しか考えてない。(後略)」と生活記録に書いてきた生徒がいる。自分(誰にもある)の中にある醜さをいとい、広い心への憧れを感じている。自分の内面を見、語れる生徒がそこにいる。

最後に、道德教育が学指になってはいけない。これは授業をどうしくむかの道德教育のひとつのこころみであり、す。なお、発表の際の具体は、差しさわりのあるので削除しました。(高山中)

女教師研究大会 委員会報告

副委員長 田所道子

十二月というのに暖かな木曜日の午後、郡市の女の先生方ら一五〇余名が一同に会して、第十一回上高井女教師研究大会が行われました。今年から平日に研修として位置づけていただくことになりました。教室に子どもを残して出てくるとか、男の先生方にご迷惑をかけないようになどの気づかいもあってか、定刻の三時になっても全員集合というわけにはいきませんでした。が、限られた時間を大切にしようということで、時間どおりに開会をしました。今年は意見発表はやめて、委員会の研究と講演会だけにしました。

その概要を報告します。

委員会の研究

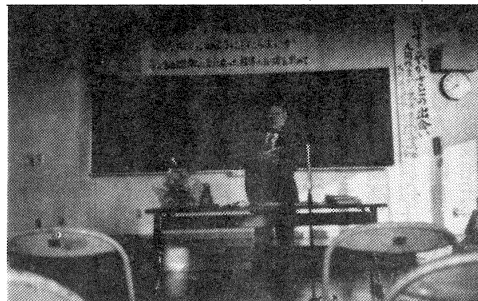
私たちが気になる子どもの行為・行動も、その子がそうせざるを得ない、その子なりの訳がある。そこに働きかけなくては適切な指導になりえないという昨年度のまとめに基づいて、今年も気になる子どもの行動を記録にとり、そのような行為は出ざるをえない背景を探って（とらえ）、その上で指導の仮説を立てて

指導にあたってきました。初めはなかなか思うような方向に、その子の変容がみられなかったのですが、そういう場合はとらえ方を変え、指導も変えてみました。一言に、とらえ方といっても、様々な背景が絡み合っているのです。こうである決めるには苦しいものがありました。それでもだめだったら別の道でやればいい。ともかく、こだわりの持ち続けてみていこうと取り組みました。こうかもしれない。だからこうしてみよう。こうやったらこうだった。と、記録を取り検討を加えていきました。途中で、世話係の先生から『育ちの順序』についてのご指導もいただき、その子の成長段階から検討を加えてみる事ができました。『子供が成長して大人になるためには、それぞれの発達段階において身につけなければいけない課題がある。この課題は、適時性と累積性を保持して途中を省略して飛び越えることはできない。』と教えていただいた。いたずらに焦って目の前の事柄だけにとらわれて解決を急ぐのではなく、一旦は子供の立場に立ち、その子のありようを受

容してから指導にあたるゆとりが生まれてきました。そして少しずつですが、その子の良い変容が見られるようになりました。

まとめの段階になって、子供の变容の前に私たち担任者の子どもを見る視点がかわってきたことに気がつきました。相手を変えることは難しい。けれど、自分たちが研修をつんで自分の幅を広げることが、子どもの良い成長につながる。それは専門職としてとても大切な事であるし、相手を変えようとするよりは、たやすくできることです。決して急ぐことなく、できるだけ肯定的に、子どもに寄り添った指導ができるように、これからも仮説とさらにきちんとした評価の目を持った指導の見返しも加え、研修をつんでいきたいと思えます。

女教師研究大会



講演など依頼されるお忙しい方です。この日も一つ長野で会合があつてお疲れのところを、時間までにかけて下さいました。教育相談や教職でのご体験を生かした具体的な事例を「だめな子と叱るあなただめな親」「なるほどあなたは石頭、それでもやっぱりヘルメット」等、楽しい話術でみんな引き込まれてし

講演会

「すこやかさと出会い」
人間性豊かな児童生徒が育つときという演題で、県児童福祉専門員、河合温先生から講演をいただきました。先生は難しい話もわかりやすくお話し下さったり、思いやりのあるお人柄で各方面から

まいりました。
動植物が、適当な気温と日光、水と栄養とで、すくすく伸びる。人の成長にもそういうことが言える。すくすく、健やかに伸びようとする子どもたちのすこやかさと付き合うということから三つの提案をいただきました。

一、子育てを楽しむ

一、子育てを楽しむ
親や教師がゆったり安定していることが大切である。不登校、中退、非行など考える不安や心配が多い。しかしその不安や心配を子どもに向けないこと。悪い悪いというよりも、その子の遊べるところに目をつけるなど、柔軟な対応によって、その子らしく機能してくると、不都合はいつの間にか消えるものである。

二、明るいセルフイメー ジを持たせよう

セルファイメーは無意識のうち形成されてしまう。だめと思ひ込んでいると良くはならない。良いと思ひ込めばますます良くなっていくという実験もある。（ピグマリオン効果）
三、もっと成長したい
と思っている子信じよう

事の問題があるようです。二つには、話してわかるということが難しいことであること。子どもと良い関係を結ぶ、伝達のしあいの要素として言葉によるものはわずか8%にすぎず、あとは、親の表情とか声の調子だと言われるそうです。つまり、どんな事を言われたかということより、どんな言われ方をしたかが、大きな比重を持つというのです。態度や心のあり方が大切になってきています。
女の先生は、母の持つ暖かさや優しさを持って、慈しむ育む機能を発揮し、男の先生の持つ父性の原理とバランスを取り合って教育にあたること。さらに女性には心のひだを聞く能力があるのだからそれを生かすように期待しますと、女教師としてすむべき方向を示唆されました。笑いつつ、あつという間の九十分。辺りは暗くなり途中からストロブにもスィッチを入れましたが、ぼつと暖かなものが残る講演会でした。
学期末の忙しい時に、貴重な研修の機会を与えて下さった先生方に感謝申し上げますとともに、私たち女教師に寄せられた期待にこたえられるよう研修と実践を積んでまいりたいと思えます。（相森中）

研究発表を聞いて

今井 一弘

師走の入りだというのに、春のような暖かさの十二月一日、平成二年度の研究発表が行われました。一昨年もこの会に出席し、たいへん楽しくそして勉強になった印象があるので、今回もとても期待していました。何が楽しみかといったら、普段は顔くらししか知らない先生方の意外な（失礼な表現ですが）一面を伺うことができることです。今回は、時間の都合でお二人の先生の発表しか聞くことができませんでしたが、期待以上のすばらしい発表でたいへん満足しています。

参加者の声

（豊洲小）

自分が見方を変える 女教師発表に参加して

加藤 康恵

「もっと講演を聞きたかったわ。」「こういう大会なら、何度参加してもいいわ」「普通日に大会ができてよかったわ。」等、我が職場は、昨日の研究大会の話に花がさいた。河合先生のユーモアある話の中に、人間を見る大切な視点を教えていただき、充実した一日を過ごすことができました。特に、河合先生の「その人の欠点や短所ばかり見ず、そ

研究発表を聞いて

前田 博展

佐々木先生の発表では、発掘の内容もさることながら、初めの方で「もっと人間の幅を広げたい。」とお話になりましたが、常々私もそう思っていましたので共感を覚えました。発掘の魅力を熱く語られるので、自分も発掘をしてみたいなりました。続いては越先生。越先生とは毎日机を並べて仕事をしていますが、発表をお聞きするまで全く知りませんでした。時間に追われる毎日の中で、しばし浮き世を忘れ、能の世界に引きこまれてしまいました。久保田先生の発表を聞くことができず残念でしたが、有意義な一時を過ごさせていただきました。



（森上小）

校章・校歌めぐり ⑪

小山小学校

て演じられている。

昭和十六年、町立小山国民学校として独立するまで、須坂尋常高等小学校小山部校であり、自らの校歌を持ちえなかった。昭和二十八年、創立八十周年記念の年を迎え、是非校歌を、という要望が高まり、作詞を石森延男氏、作曲を下総院一氏に依頼し制定された。美しい自然をたたえ、その恵みの中で明るく清く、正しく学ぶこと、友と力をあわせてともに生きること論しているこの校歌は、児童はもとより父母、市民にも広く親しまれ、あらゆる機会に愛唱されている。また、その後、振りつけがなされ、現在も運動会では伝統の全校ダンスとして



校歌 坂東高校生西山（旧姓青木）敬子さんのデザインに

御覧の 日本アルプス あり、こころを清く われらも、朝早く清く 心もちつつ 心もちつつ つくろふ心 十曲の流れ ことばあり ぎょうも学ばよ われらも、正しく生きる のぞき待つ 心もちつつ 春は けしき松山に 親しみ 思いなつかし 及ばぬ 心をあわせ 共に進まん 共に進まん

編集後記

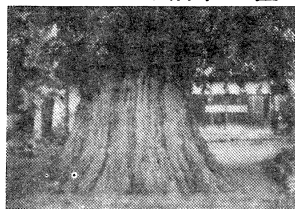
野山はすっかり雪化粧をし、いよいよ冬本番を迎えました。日々、寒さも厳しくなりましたが、いかがお過ごしでしょうか。

さて、本号では、「第十二回研究発表会」「第十一回女教師研究大会」の特集を組んでみました。どちらの会も多数の参加者がある中で、充実した研究発表が行われ、有意義なものとなりました。年の瀬も押し迫り、先生方におかれてはお忙しい毎日を送られていることと存じます。こうした中、今回原稿を早くお寄せ下さいました先生方に心からお礼を申し上げます。皆様、良いお年をお迎え下さい。

（高山小）

（小林・小野）

須高の自然③ 樹形の大イチョウ(♂) 堀米 富平



高山村樹形公会堂の庭に天を突くようにそびえている。幹囲六・八呎 樹高二六呎。須高に幹囲三呎以上の巨木イチョウは大洞観音、長妙寺、興国寺、黒岩義和氏、熊野神

公会堂内には由緒ある仏像が安置されており、古くからの民俗信仰がうかがわれ、本樹も集落繁栄の守り主的存在であったであろう。村内のどのイチョウよりも落葉が遅く、この木の葉が落ちると雪が来ると言い伝えられている。

さて、本号では、「第十二回研究発表会」「第十一回女教師研究大会」の特集を組んでみました。どちらの会も多数の参加者がある中で、充実した研究発表が行われ、有意義なものとなりました。

年の瀬も押し迫り、先生方におかれてはお忙しい毎日を送られていることと存じます。こうした中、今回原稿を早くお寄せ下さいました先生方に心からお礼を申し上げます。皆様、良いお年をお迎え下さい。